

校長室だより		令和6年5月30日発行
共学共高	第	発行責任者
	67	白梅学園高等学校長
	号	武内 彰

第61回体育祭開催！

前日からの前線の影響で、数十年振りの順延を覚悟していたが、予想外に降雨量が少なく、5月29日（水）予定通りに体育祭を開催することができた。61期生にとっては初めての体育祭、そして59期生にとっては最後の体育祭、60期生にとっては2度目の体育祭である。

生徒会長Bさんの開会宣言、引き続き体育委員長のSさんの選手宣誓によって、開会となる。私も開会式であいさつをするのだが、朝礼台の上から全校生徒の様子をみると、いつもきちんとしている。注目すべきところや集中すべきところを心得ている。私はいくつもの学校を経験して来たが、こうしたところは白梅生のいいところの一つだと感じる。

今年は御来賓の皆様も御来校いただき、また、全学年の保護者の皆様にも公開することができた。平日にもかかわらず、500名を超える保護者の皆様に御来校いただいた。

プログラム1番は、「準備体操」である。ダンス部のメンバーが最前列に並んで、そして朝礼台の上でも見本をみせてくれる。それにしたがって、準備体操をするのだが、内容はダンス部の生徒たちが考えたオリジナルメニューである。私は、前日の放課後にダンス部のリハーサルを見ていたので、おおよその内容は把握していたが、手と足を同時に対角線に広げるところが上手くできなかった。自己採点で70点といったところか。ダンス部のみなさん、いつも素敵な準備体操をありがとう。

毎年のことなのだが、100mや70mハードルでは、誰もが全力疾走である。時折、飛びぬけて速い生徒がいるが、陸上競技部に所属していることが多い。応援する生徒たちからも大きな声援や温かい拍手が選手に対して送られる。



3年綱引きは、なかなか激しい戦いが展開される。力のありそうな選手が多い印象だ。なかなか綱が動かないこともあるが、スーッと動いていく場合もある。勝敗が決まると喜びをあらわにする生徒が多い。午前中は予選で、午後に決勝が行われたが、午後の決勝も見ごたえのある戦いであった。





全学年とも成長ムカデリレーに参加するが、掛け声がクラスごとに異なり、なかなか面白い。私が個人的に気に入ったのは、担任の先生の名前、「ま〇〇、ま〇〇、え〇〇〇ま〇〇！」と連呼しながら進んでいく3年某クラスだ。また、中にははじめから走ることをやめて、歩くことに徹し転ばないようにしているクラスもある。個性的な戦術だ。



2年台風の目は、3人で1つの棒を持ちながらコーンの周りをうまく回転し上手に走っている印象だ。1年大縄跳びも連続で跳ぶのに苦労していたが、かなり回数を稼いでいるクラスも目に付く。こうした集団競技は見ていて面白い。





今年の体育祭で初めて導入されたのが、「借り物・借り人競争」だ。学年別に行われるが、お題の書かれたボードが風で動かされてしまうので、係の生徒たちが手で押さえて行われる。「他人の靴」「帽子をかぶった先生」「黄色の鉢巻きをした人」「マイク」など、さまざまに借り物・借り人を見つけて、決められたエリアを走ってゴールする。学校に一人しかいないので、覚悟はしたが、私も借り人の対象だ。普段は、バドミントン部の生徒と一緒に練習をして体を動かしてはいるが、短距離を全力疾走することは稀だ。生徒と一緒に走って楽しかったが、左大殿筋を痛めてしまった。来年は、予め走る練習をしておくことにしよう。生徒からの御指名で、井原理事長にも御参加いただいた。放送部がその旨を案内すると、大きな拍手が起きていた。そういえば、今年は放送部が大人数となっていて、驚いた。仮入部中の生徒もいるとのことだが、頼もしい限りである。



午前の部の最後は、3年進学コースの生徒による創作ダンス演技だ。白いTシャツにジーンズといった衣装でさっそうと入場してくる。130人を超える生徒たちのダンスは迫力がある。練習の成果が出ていて、まとまりのある、そして表現力のある演技であった。





午後の最初の種目は「部活対抗リレー」だ。第1レースは文化部が出場する。軽音楽部のバトンは、手作りのベースだ。重そうに見えたが、段ボールなどで作られているようだ。リアルに見える。演劇部はそれらしく個性的な衣装をまとっている。演劇部のバトンはひょうたんのようだ。エプロン姿は調理部、白衣姿は自然科学部と、わかりやすい。デコレートされたボードを持って走っていたのは何部だろうか、気になる。第2レースは運動部だ。今年は、陸上競技部とハンドボール部の激しい対決が見られるのかと思っていたが、なんと合同チームでの出場だ。それは強すぎるのではないか。私は、バドミントン部の顧問を務めているので、この時ばかりは校長であることを忘れ、部員を全力で応援する。第1走者のTさんは少し照れたような困惑したような顔を見せていた。予想通り、陸上競技部とハンドボール部の合同チームが先頭を走るが、途中でバトンのミスがあって、一時的にバドミントン部が先頭を走る。私が着任してから初めて見る光景だ。(密かに嬉しい)



続いて、バトン部の演技、さらにダンス部の演技と続く。それぞれの部で3年生は引退となる生徒も多いようだ。私の居場所である朝礼台のところには、友達などが集まってきて大きな声援を送っていた。さまざまな思いがあるのだろう。バトン部には「可愛いよー」、ダンス部には「格好いいよー」という声援が多かったように感じる。演技を終えて涙する3年生も散見される。お疲れさま。





学年ごとのクラス対抗リレーも見応えがある。どの生徒も全力で走っている。今年はバトンの受け渡しが上手だ。ミスを見かけることがなかった。応援席からも大きな声援が送られる。一所懸命な生徒に対して心からの応援が届けられるのだ。



締めくくりの種目は、学年ごとの「障害物リレー」である。玉入れや洗濯物を高いバーに干す、2本のバドミントンラケットで風船をはさんで走り、椅子に座って風船を割る、などさまざまなことをクリアしなければならない。なかなか大変な競技である。3年生は、6個の段ボールに分割して貼られた担任の先生の似顔絵を組み合わせ完成させてゴールとなる。どの似顔絵も特徴をよくとらえていて感心させられる。各クラスに才能のある生徒がいるのだ。3年生にとっては最後の体育祭。多くの保護者の皆様にも御覧いただいて、御家庭で

の話題にもなったであろうか。3学年優勝は、3年5組であった。昨年の白梅祭で校長賞を獲得したクラスである。





閉会式を終え、ホームルーム後に、多くの体育委員がグラウンドに再集合し、テントの片づけを手伝ってくれた。ありがとう。

61期生を迎えて、生徒たちが主役となる最初の全校行事であった。一人一人が真摯に取り組む。それと共に一人一人が集団に力を与え、集団から力をもらうのである。一人では乗り越えられないことも仲間と共に乗り越えていける。生徒たちがそうした思いを共有してくれたらこの上ない喜びである。

(共学共高とは：本校のディプロマポリシー（育てたい生徒像）の一つで、「共に学び、共に高め合う」生徒の姿を表す)